

# ELEMENT GALLERY

フィクションとリアルを横断するオンラインギャラリー

## ELEMENT GALLERY

URL : <https://elementgallery.net/>

INSTAGRAM : [https://www.instagram.com/\\_elementgallery/](https://www.instagram.com/_elementgallery/)

2023年1月28日（土）オープン

企画展「Fictional Fact」＜開催期間 2023年1月28日（土）～ 3月31日（金）＞

AKI INOMATA、荒牧 悠、磯谷博史、鈴木康広



Ficciones, M.C.W.M #3 (Spread) © DOMINO ARCHITECTS + SUNJUNJIE + Gottingham (Licenced under CC-BY 4.0)

フィクションとリアルを横断するオンラインギャラリー、ELEMENT GALLERYは、2023年1月28日（土）00:00にオープンします。ウェブ上に架空のギャラリー空間を構築しながら、現実世界に存在する作品を展示、販売していきます。

CGI建築（コンピュータで生成された架空の建築）は、FICCIONES（DOMINO ARCHITECTS、SUNJUNJIE、Gottingham）、ロゴデザインに岡本健デザイン事務所を迎えました。ウェブのディレクションは萩原俊矢、コーディングをN sketchが担当。運営/キュレーションはデザインライターの角尾 舞が行います。

記念すべきELEMENT GALLERYの柿落としとなる企画展「Fictional Fact」＜開催期間 2023年1月28日（土）～ 3月31日（金）＞では、AKI INOMATA、荒牧 悠、磯谷博史、そして鈴木康広の4人のアーティストの作品を紹介します。アーティスト一人ひとりと角尾舞が共に「架空のギャラリーで展示するのに適切な作品とは」を話し合いながら、作品を選びました。作品の大半は購入可能で、ビジュアルブックも販売します。

CONTACT

プレスお問合せ先

HOW INC.

[pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp)

お客様お問合せ先

ELEMENT GALLERY

[elementgallery.info@gmail.com](mailto:elementgallery.info@gmail.com)

## ELEMENT GALLERY（エレメントギャラリー）コンセプト

ELEMENT GALLERYは、フィクションとリアルを横断する架空のギャラリーです。オンライン上の展示空間で、現実世界に存在する作品を展示、販売します。

デジタル世界だからこそ実現可能な空間表現と、現実世界に存在する作品や製品、そしてギャラリーという空間とシステムが、ウェブサイトのプラットフォームとしての役割や機能と結びついたとき、どのようなあり方が可能となるのか。ここはその実験の場でもあります。

あえて自由に動き回るのではなく、写真や映像だけで理解してしまうのではなく、想像の余地を規定しながら作品にふれることで、非日常の体験ともいえる美術館での鑑賞行為を、オンラインで新たな体験として生み出せないかと考えました。

リアルへの渴望と、架空世界への憧憬が混ざり合う、どこにもないギャラリーへようこそ。

## ELEMENT GALLERY（エレメントギャラリー）について

主催/キュレーション：角尾 舞

CGI建築：FICCIONES（\*）

グラフィックデザイン：岡本健デザイン事務所（岡本 健、宮野 祐）

ウェブディレクション：萩原俊矢

ウェブ制作：N sketch（清水 快）

プロジェクトマネージメント/編集：山本梨央

写真：Timothée Lambrecq、清水はるみ

CG内シャンデリアデザイン：Mario Tsai Studio

映像音楽：香田悠真

翻訳：ジェームズ・ケティング

PR：HOW INC.（小池美紀）

アドバイザー（コンセプト）：クロス・フィロソフィーズ株式会社（吉田幸司、清水友輔）

アドバイザー（契約、規約等）：CITY LIGHTS LAW（水野 祐、林かすみ）

### \* FICCIONES（フィクションネス）について

DOMINO ARCHITECTS、SUNJUNJIE、Gottinghamからなるコレクティブ。一連のイメージによって架空世界と物質世界とが互いに入れ子になっていくような作品を手がける。その創作は一貫して架空世界の中で行われる。複製/反復/循環の手法によって物質世界では不可能な空間を構築し、素材を与え、撮る。建築家、CGアーティスト、写真家という枠を超えて活動する彼らの作品は、空間であり現象であり、物語である。

世界的なパンデミック以降、オンラインで作品を見せたり、販売したりする企画も増え、また、現実の美術館を3DやVRで見渡せるウェブサイトやサービスも、数多く誕生しました。

しかし、web上で作品を発表するという行為自体は、インターネット黎明期の1990年代から存在しています。ネットアートと呼ばれる分野も同時期に確立されました。

このギャラリーが目指すのは、ネットアートの再興ではありません。同時に、いま現実世界に存在する空間の複製でもありません。さらには、VRやARのようなリッチなウェブコンテンツでも、NFTのような形式でもありません。

デジタルだからこそ実現可能な建築空間と、現実世界に存在する作品/製品、そしてギャラリーという空間性を持つシステムが、ウェブサイトにおけるプラットフォームとしての役割や機能と結びついたとき、どのようなあり方が可能となるのか。その実験であり、実践の場として、今回の企画をメンバーで立ち上げました。この空間を用いて、今後も新しい企画やコラボレーションができればと考えています。

運営/キュレーション 角尾舞

## 企画展 Fictional Fact について

会期：2023年1月28日（土）～ 3月31日（金）

参加作家：AKI INOMATA、荒牧 悠、磯谷博史、鈴木康広

URL：<https://elementgallery.net/>

オンラインショップよりビジュアルブックをご購入いただけます。

Visual Book of ELEMENT GALLERY（2冊組）

¥3,300（税+国内送料込み）

ビジュアルブック：ドイツ装 A5サイズ 40ページ、Fictional Fact / 図録：A5サイズ 中綴じ 36ページ

ELEMENT GALLERYの柿落としとなる企画展「Fictional Fact」では、AKI INOMATA、荒牧 悠、磯谷博史、そして鈴木康広の4人のアーティストの作品を紹介し、一人ひとりと「架空のギャラリーで展示するのに適切な作品とは」を話し合いながら、作品を選んでもらいました。

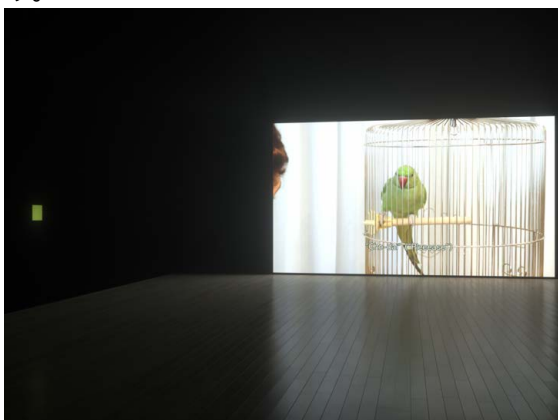
主に生き物との関わりから作品を制作するINOMATAは、2010年の映像作品をベースに、そこで生まれた造語を額装し、映像とともにパッケージ化しました。人ではない者が生んだ新しい言語表現を、まるで名言のように見せています。

荒牧は「Non Observation Things」という7つの作品から成るシリーズを発表します。「測るもの」をモチーフとした作品群は現実世界では機能を持たないが、架空世界での役割は異なるのかもしれませんが。

磯谷は、実現したかどうかすらわからない、あるイベントのポスターを刷った。まるで美術館のポスターかのような設えによって、実在した出来事であると人々に想起させてしまいます。代表作の一つである、過去と現実が入れ替わるかのような写真シリーズも同時に展示します。

鈴木は、重力と水という地球を構成する重要な要素から、新作を発表します。ありえるのか、ありえないのかすらわからない永遠性を2つの作品は示唆しますが、結果は誰にもわかりません。この世界に重力はあるのか？水は循環するのか？作家は、誰も知らない問いを投げかけます。

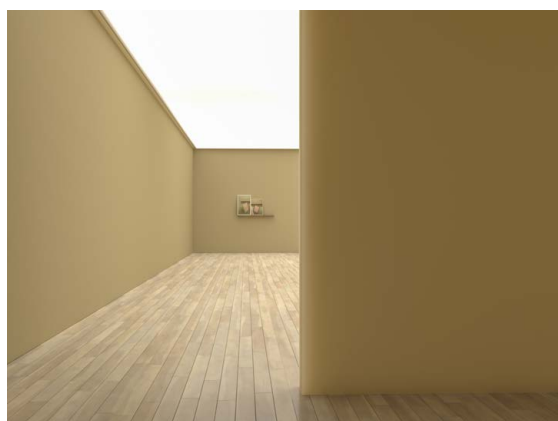
アートという表現自体が、フィクションと混ざり合うのは常ですが、今回展示するのはいずれも、どこかに確かな事実が存在しています。現実から地続きの虚構を、作品と空間を通じてお楽しみいただければ幸いです。



Aki Inomata ©ELEMENT GALLERY



Haruka Aramaki ©ELEMENT GALLERY



Hirofumi Isoya ©ELEMENT GALLERY



Yasuhiro Suzuki ©ELEMENT GALLERY

## 企画展 Fictional Fact 参加作家

## 鈴木康広

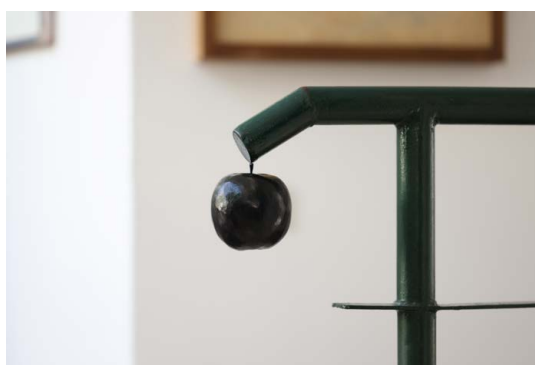


Photo by Timothée Lambrecq

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象を独自の「見立て」によって捉え直す作品を制作。公共空間でのコミッションワーク、大学の研究機関や企業とのコラボレーションにも取り組んでいる。瀬戸内国際芸術祭2010では全長11メートルの《ファスナーの船》を出展。2014年水戸芸術館 鈴木康広展「近所の地球」、金沢21世紀美術館 鈴木康広「見立て」の実験室を開催。2016年「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ2016」に日本代表として出展。2017年-2018年、箱根 彫刻の森美術館にて個展「鈴木康広 始まりの庭」を開催。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科准教授、東京大学先端科学技術研究センター中呂研究室客員研究員。2014毎日デザイン賞受賞。平成29年度文化庁文化交流使。作品集に『まばたきとはばたき』『近所の地球』（青幻舎）、絵本『ぼくのにゃんた』『りんごとけんだま』（ブロンズ新社）がある。

website: <http://www.mabataki.com/>

instagram: [https://www.instagram.com/mabataki\\_suzuki/](https://www.instagram.com/mabataki_suzuki/)



© Yasuhiro Suzuki

作品名：《いつ落ちるかわからないりんご：永久磁石》  
を含む新作2作品を発表

## AKI INOMATA

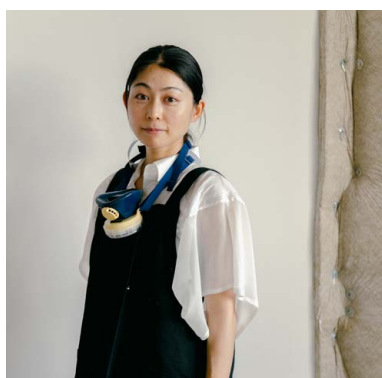
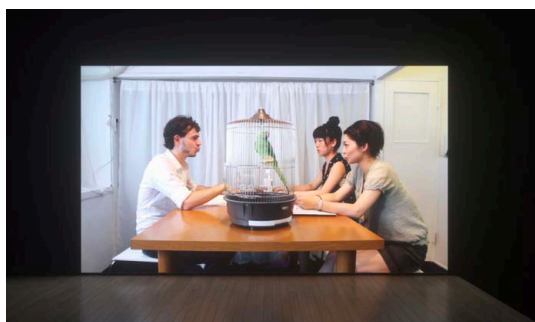


Photo by Timothée Lambrecq

アーティスト。1983年生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。東京都在住。2017年アジアン・カルチュラル・カウンシルのグランティとして渡米。生きものとの関わりから生まれるもの、あるいはその関係性を提示している。ナント美術館（ナント）、十和田市現代美術館（青森）、北九州市立美術館（福岡）での個展のほか、2018年「タイビエンナーレ」（クラビ）、2019年「第22回ミラノ・トリエンナーレ」トリエンナーレデザイン美術館（ミラノ）など国内外で展示。2020年「AKI INOMATA: Significant Otherness 生きものと私が出会うとき」（美術出版社）を刊行。

website: <https://www.aki-inomata.com/>

instagram: <https://www.instagram.com/akiinomata/>



© AKI INOMATA

作品名：《インコを連れてフランス語を習いにいく》  
(HD映像 (5分21秒 / 16:9)、額装された活版印刷)



## 企画展 Fictional Fact 参加作家

### 磯谷博史



Photo by Timothée Lambrecq

美術家。1978年生まれ。東京藝術大学建築科を卒業後、同大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻およびロンドン大学ゴールドスミス校で美術を学ぶ。写真、彫刻、ドローイング、それらの相互の関わりを通して、事物への認識を再考している。

近年の主な展覧会に「動詞を見つける」（小海町高原美術館、長野、2022）、「Constellations: Photographs in Dialogue」（サンフランシスコ近代美術館、2021）、「L'image et son double」（ポンピドゥー・センター、パリ、2021）など。

website : <https://www.whoisisoya.com/>

Instagram : [https://www.instagram.com/hirofumi\\_isoya](https://www.instagram.com/hirofumi_isoya)



作品名：《5つの印象》

（日・英／印刷されたポスター、ペインティング）

他、1点を出展

Photo by Timothée Lambrecq © Hirofumi Isoya

### 荒牧 悠



Photo by Timothée Lambrecq

アーティスト。神奈川県生まれ。慶應義塾大学政策メディア研究科修了。構造や仕組み、人の認知に注目した作品を制作している。作るオブジェは動いたり動かなかったり、扱う材料は様々。

主な参加展覧会に「単位展-あれくらい それくらい どれくらい？」

（2015,21\_21designsight）、「デザインの解剖展: 身近なものから世界を見る方法」

（2016,21\_21designsight）、「すがたかたち展」

（2017,青山spiral）、「個展「青と赤展」（2018,Hikarie 8/ aiiiima）

「ストウラクチャ」（2021,Hikarie 8/ aiiiima）など。

website: <https://harukaaramaki.com/>

instagram: [https://www.instagram.com/haruka\\_aramaki/](https://www.instagram.com/haruka_aramaki/)



作品名：《NOT - 2 (真鍮)》

Photo by Timothée Lambrecq © Haruka Aramaki